

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和2年10月7日（水）

2 確認箇所

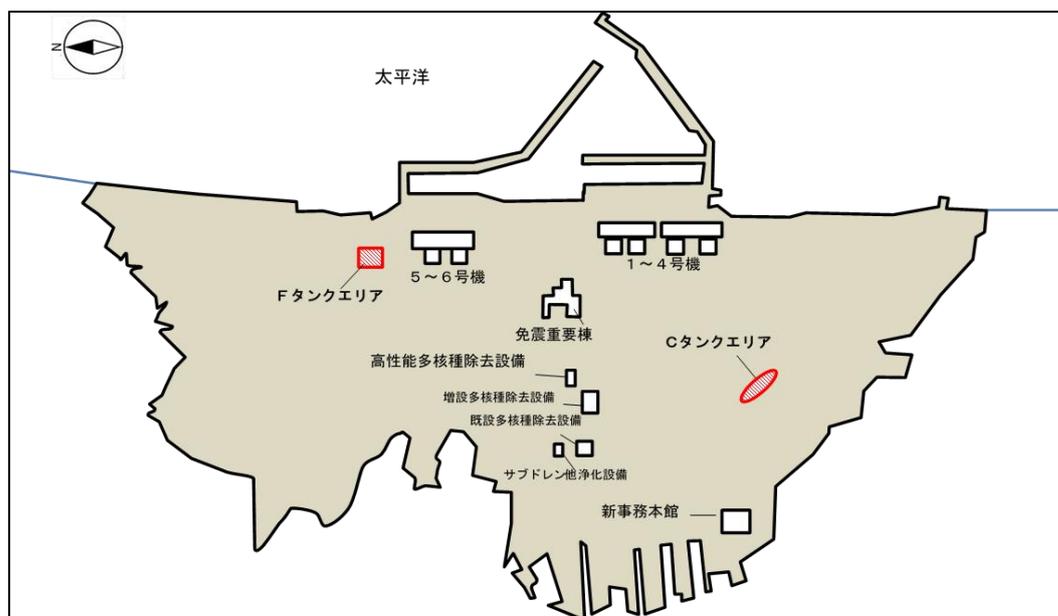
- ・ Cタンクエリア
- ・ Fタンクエリア（5・6号機淡水化装置）

3 確認項目

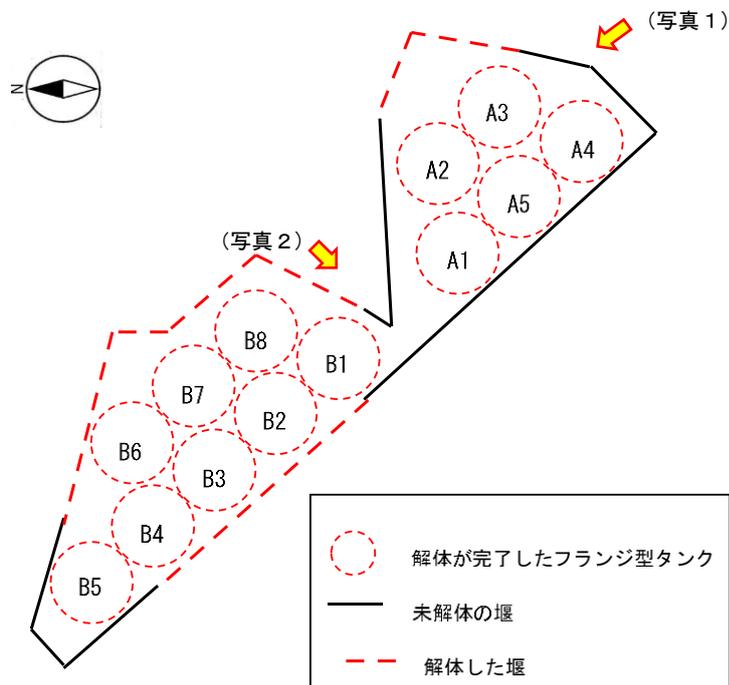
- (1) Cタンクエリアのフランジ型タンク解体工事の進捗状況
- (2) 5・6号機淡水化装置ROポンプ油漏れ事象の対応状況

4 確認結果の概要

- (1) Cタンクエリアのフランジ型タンク解体工事の進捗状況について
前回（8月31日）に引き続き、Cタンクエリアのフランジ型タンク解体工事の進捗状況を確認した。（図1、図2）
 - ・ 前回確認時に南東側で解体中であった1基のタンク（A4タンク）の解体が終了しており、Cタンクエリアにあった13基のフランジ型タンクの解体が完了した。（写真1）
 - ・ 前回確認時に撤去作業が行われていた横断側溝は、撤去が完了しており、撤去跡は砕石で埋め戻しされていた。（写真2）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(図2) Cタンクエリア配置図



(写真1)
Cタンクエリア南東側の状況
(南東側から撮影)



(写真2)
横断側溝撤去跡の状況
(北東側から撮影)

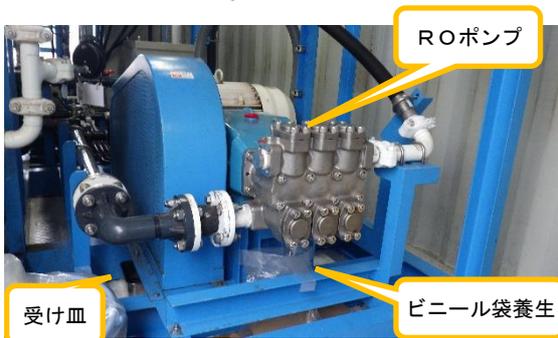
(2) 5・6号機淡水化装置ROポンプ油漏れ事象^{*}の対応状況について
10月5日に油漏れが発生した5・6号機淡水化装置ROポンプ（以下「ROポンプ」という。）の分解点検が予定されていたことから現地の状況を確認した。（図1）

※ROポンプ油漏れ事象

10月5日17時48分頃、Fタンクエリアのコンテナ内に設置されているROポンプ（RO膜（逆浸透膜）で水を処理するために昇圧・送水しているポンプ）下部から潤滑油が漏れいしていることをパトロール中の東京電力社員が発見したもので、淡水化装置の運転を停止し、18時15分に油漏れが停止していることが確認された。

漏れい範囲は約30cm×10cm×1mmでコンテナ内に留まっており、滴下した油は拭き取られ、ROポンプ下部に養生が実施された。

- ・ ROポンプ下部には、ビニール袋の養生や受け皿が設置されていた。確認した範囲では、ROポンプからの油の滴下は見られなかった。（写真3）
- ・ ROポンプ周辺をビニールシートで養生した後に、分解点検作業が開始された。（写真4）
- ・ 東京電力によると、分解点検の結果を踏まえて対応を検討するとのことであった。



(写真3)
分解点検前のROポンプの状況



(写真4)
分解点検作業開前の養生の状況

5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。